

第70回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会 開会式 大会実行委員長 挨拶

この度の北海道胆振東部地震において、土砂災害や家屋の倒壊、断水、及び、道内全域にわたる大規模停電、さらには、尊い命が失われるなど、甚大な被害が生じました。

ここに謹んで深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、この震災に対しまして多くの校長会の皆様から励ましの言葉やお見舞いの言葉をいただき、心強く感じますとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

あらためまして、皆様、ようこそ北の大地「北海道」の函館市にお越しくださいました。心から歓迎いたします。

復興という点では、まだ十分とはいえない地域もある北海道ですが、皆様からの応援とお力添えのおかげで、北海道命名150年という節目のこの年に、第70回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会並びに第61回北海道小学校長会教育研究函館大会を、北海道函館市で開催できますことは、大きな喜びであり誇りでもあります。

今日は、文部科学省初等中等教育局教育課程課長 望月 禎様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜わり、誠にありがとうございました。

果てしない大空と広い大地が広がる「北海道」。冬は、雪に覆われ、長く厳しい寒さに包まれます。開拓時代、この自然環境は人々に多くの困難をもたらしました。しかし今では、冷涼な気候を利用して安全安心な食材を豊富に産出する日本最大の食糧基地となり、雪を活用した観光やスポーツが魅力となっています。そして、青函トンネルを走る北海道新幹線が、それらの魅力を求める多くの観光客を運び、ますます発展を遂げようとしています。先人たちの知恵と工夫と挑戦が、この厳しい困難を改善し、現代に恩恵をもたらしたのです。



変化が激しく将来の予測が難しい時代にあって、子どもたちが高い志や意欲をもつ自立した人間として育つためには、北海道の先人たちのように、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要です。また、人と人との絆をつくり支え合う共生の意識や、夢と希望に満ちた活気溢れるふるさとづくりに積極的に貢献しようとする意識を醸成することや、一人一人の個性と人と人との絆を大切にしながら、自然災害からの復興などに粘り強く取り組むことができるたくましさを育むことも大切となってきます。このようなことから北海道大会は副主題を「ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」と設定しました。本大会では、大会主題・副主題に迫るべく、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性について究明したいと願っています。

大会1日目の13分科会での研究協議では、大会主題・副主題を受け、8年前札幌市で開催された全連小北海道大会での合言葉「分科会の充実こそが最大のおもてなし」の理念の下、準備を進めて参りました。北海道小学校長会では、参加される校長先生方の意欲が高まり、充実した分科会となるよう、グループ討議の在り方やアナライズカード等を利用した運営など、様々な工夫を重ねてきました。本大会では、この取組を一層推進し、フリップや実物投影機を効果的に活用するなど、今までの参加型・参画型の分科会から、視覚化を取り入れ、さらなる分科会の深まりを目指した運営に努めます。

大会2日目には、「ふるさと・挑戦・未来創造」をキーワードとして、北海道や函館市に縁のある3名によるシンポジウムを開催します。シンポジストは、8度の冬季オリンピックに出場したスキージャンプ選手レジェンド葛西紀明氏、「おにぎりあたためますか」という番組で大泉洋さんと全国各地を巡った函館出身の元アナウンサー佐藤麻美氏、地元の企業家で北海道PTA連合会顧問の青田基氏の3名です。全連小 針谷玲子調査研究部長のコーディネートのもと、大いに語り合っていたいただきたいと思います。

今、教育改革の動きが加速する中、この北海道大会が新たな起点となり、全国における教育の充実・発展に資することを信じております。本大会において、各分科会の課題を究明していくことを通して、研究内容がこ

こに集った約2500名の校長先生を通して全国の各学校に還流され、学校経営に反映されていくことを強く願っています。

結びになりますが、本大会の開催に当たり、ご指導とご助言をいただきました文部科学省、北海道、北海道教育委員会、函館市、函館市教育委員会、北海道都市教育委員会連絡協議会、北海道町村教育委員会連合会、北海道PTA連合会、函館市PTA連合会をはじめ、関係諸機関、全連小役員、事務局及び関係の皆様方に厚く御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2日間、どうぞよろしく願いいたします。